

環境エネルギー

融合研究センター(i-ENERON)



第2回i-ENERONウェビナー

2020.9.24 (木) 11:00~12:00

~

「人工光合成の実用化への展望」

環境エネルギー融合研究センター 客員教授
ゼロエミッション国際共同研究センター 首席研究員 佐山 和弘氏

太陽エネルギー利用において、太陽電池や太陽熱利用に次ぐ第三の技術として人工光合成が注目されています。

人工光合成反応の中でも光触媒や光電極を用いた水分解水素製造などは最も有望な技術と考えられていますが、その現状と展望についてわかりやすく解説します。如何に単純なシステムで高性能化できるかがポイントです。

当チームは可視光での光触媒水分解に世界で初めて成功しています。今春、吉野彰博士(2019年ノーベル化学賞受賞)をセンター長とするゼロエミッション国際共同研究センターが発足し、人工光合成はその中核技術として研究されています。経済性のある水素製造方法や、水素と有用化学品の同時製造など、その実用化へのビジョンについても説明します。



◆ 参加申し込み方法 ◆

参加申し込みは、下記のメールアドレスに連絡をしてください。
連絡いただいた方に参加用URLとパスワードをご連絡させていただきます。

九州工業大学オープンイノベーション推進機構 産学官連携本部 担当：米澤
TEL 093-884-3562 MAIL ura-office@ccr.kyutech.ac.jp

～ 環境エネルギー融合研究センターの紹介～

近年、深刻さを増している地球温暖化はエネルギー問題と直結しており、エネルギー変換技術に関する研究の社会的重要性、緊急性は益々高まっております。九州工業大学では、2020年4月より環境エネルギー融合研究センターを新たに発足させました。本センターは現在主流の、熱エネルギーから力学的エネルギーとし電気エネルギーへ変換する技術に代わる、光-熱-物質-電気エネルギー直接変換技術の研究に学際的に取り組み、「もの」から「エネルギー」創りへシフトしていく社会に貢献する技術を開発していきます。



センター長 宮崎 康次